

おおくにたまじんじゃ まつ
大國魂神社の祭り 1

氷雨祭 稲荷神社例祭
春季祭 春季皇霊祭遥拝式

滝神社例祭
巽神社例祭

くらやみ^{まつり}祭



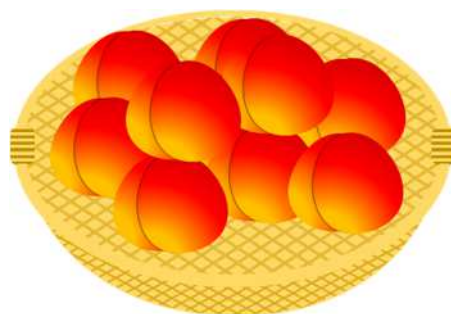
東照宮例祭
夏至祭

おおはらえしき
大祓式

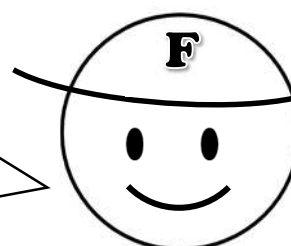


宮乃咩神社例祭
青袖祭 杉舞祭

すもも^{まつり}祭



こんかい はる なつ まつ
今回は春から夏のはじめまでのお祭りのうち、
みつ まつ しょうかい
三つのお祭りを紹介するよ。



おおくにたまじんじゃ 大國魂神社

「大國魂神社」は、そのむかし武蔵国を開いたといわれる大國魂大神を武蔵国の守り神

としてお祀りした神社です。「大國魂神社」ができたのは、今から約1900年前の景行天皇41（111）年5月5日だったといわれています。

本殿は昭和37（1962）年に東京都の有形文化財（建造物）に指定されました。また、

境内にある宝物殿には、昭和24（1949）年に国の重要文化財に指定された『木造狛犬』

をはじめ、色々な文化財が納められています。大鳥居の北側にある馬場大門のケヤキ並木

も、大正13（1924）年に国の天然記念物に指定されています。

むかしは、武蔵国造という地方役人が「大國魂神社」の神事*1などを代々行っていたといわれています。その後、国府が府中に

*1神事とは？ 神様を祀る儀式や行事のこと。

置かれ、役人である国司が都から府中に派遣されると「大國魂神社」は武蔵国の神事を執

り行う神社になりました。

国府・国司については、『こども府中は
かせ5 府中と国府』を見てね。



武蔵国にあるたくさんの神社を回って、神事や参拝などをするのも国司の大事な仕事

でした。しかし、全ての神社を回るのは難しいので、武蔵国にあった神社の神様を「大

國魂神社」で一緒に祀るようになったといわれています。このため『武蔵総社』と呼ばれ

るようになります。これが『武蔵総社大國魂神社』の始まりです。

その後、武蔵国の大きな六つの神社、小野神社（一ノ宮 東京都多摩市）、小河神社（二

ノ宮 東京都あきる野市）、氷川神社（三ノ宮 埼玉県さいたま市）、秩父神社（四ノ宮 埼

玉県秩父市）、金鑽神社（五ノ宮 埼玉県児玉郡神川町）、杉山神社（六ノ宮 神奈川県横浜

市)の神様が「大國魂神社」の神様と一緒に祀られるようになったので、『六所宮』、『六所

明神』とも呼ばれていました。武蔵国の総社になったこと、武蔵国の大きな六つの神社の

神様が祀られていることから『武蔵総社六所宮』を神社

の名前としていたこともありましたが、現在では元の

名前である『大國魂神社』となっています。



まつり くらやみ祭

大國魂神社の例大祭*2は、府中に国府があった

頃に行われていた武蔵国の「国府祭」が始まりだ

例大祭とは？

毎年決まった日に行う神社の祭りの中で、最も重要な祭礼です。

といわれています。むかしは貴い神様を見ないようにまちの明かりを消した暗闇の中、深

夜に神輿渡御が行われたため、「くらやみ祭」と呼ばれるようになりました。

「くらやみ祭」は夕盛りとも呼ばれる4月30日の『品川海上禊祓式』*3という神

事から始まり、5月1日の『祈晴祭』、5月2日の

『御鏡磨式』、5月3日の『囃子の競演』と続き

ます。そして、5月3日の夜には旧甲州街道（

大鳥居前（「大國魂神社前交差点」付近）から御旅

所*4前（「府中市役所前交差点」付近）まで）を

4頭の御神馬が3往復する『競馬式』が行われま

す。5月4日になると、『御綱祭』、『子供神輿連合

品川海上禊祓式とは？

4月30日の朝早く、大國魂神社の神職たちが品川区の荏原神社に行き、舟で海上に出て潮水で身を清め、潮水をくみ取ってくる神事のことです。

御旅所とは？

大國魂神社のご祭神である大國魂大神を祀る御本社と、武蔵国内にある一之宮から六之宮、そして御霊大神を祀る御霊宮の計8基の神輿が、たくさんのかつぎ手たちによってかつがれた後、仮にとどまる所としてここに納められます。

とぎょ まんとうたいかい おこな ゆうがた にほんさいだいきゅう おおだい こ おおとり い まえ そろ たい
渡御』、『万燈大会』などが行われ、夕方には日本最大級の大太鼓が大鳥居前に揃う『太

こ きょうえん おこな お だい だし はやし じゅんこう
鼓の響宴』が行われます。これが終わると、22台の山車がお囃子をしながら巡行する

だしぎょうれつ はじ
『山車行列*5』が始まります。5月5日は

おおくにたまじんじゃ おこな ねんちゅうぎょう じ なか いち
大國魂神社で行われる年中行事の中で一

だしぎょうれつ
*5山車行列とは？

かみさま の うつ かざ くるま ひ
神様が乗り移るための飾りをのせた車を引
て、お囃子をしながら町内を歩くことです。

ばんじゅうよう さいぎ れいさい はじ ご みちきよ たい こ おく こ み
番重要な祭儀である『例祭』から始まります。その後、『道清め』や『太鼓送り込み』、『御

け さいそく ぎ おこな ゆうがた はなび あいず はり おおだい こ う な
饌催促の儀』などが行われ、夕方になって花火の合図で6張の大太鼓が打ち鳴らされると、

「おいで」とも呼ばれている『神輿渡御』が始まります。その後、『坪宮神事』などの続

おおくにたま かみさま でんせつ ゆらい のぐちかりや ぎ おたびしよまえ しき
き、大國魂の神様についての伝説に由来する『野口飯屋の儀』、御旅所前で『やぶさめ式』

おこな よく そうちよう き みこし おたびしよ で おさきばらいだい こ みちび
が行われます。翌5月6日の早朝、8基の神輿は御旅所を出て、御先払太鼓に導かれ

かくちょうない めぐ あと じんじゃ かえ みこしかんぎょ おこな さいご かえ
て各町内を巡った後に神社に還る『神輿環御（おかえり）』が行われます。最後に還って

みこし みたま ほんでん おさ たいさい お ほうこく ちんざさい おこな
きた神輿から御霊を本殿に納めて大祭が終わったことを報告する『鎮座祭』が行われ、「く

まつり お
らやみ祭」は終わります。

まつり ちゅうしんしんじ おこな みこしとぎょ おお
「くらやみ祭」の中心神事は、5月5日に行われる『神輿渡御』です。はじめに、大

だいこ で みこし せんどう つぎ いちのみや ろくのみや みこし き あと おおくにたま
太鼓が出てきて神輿を先導します。次に一ノ宮から六ノ宮までの神輿6基、その後に大國魂

かみさま まつ ごほんしゃ みこし さいご ごりようのおかみ まつ ごりようぐう みこし で
の神様を祀った御本社神輿、そして最後に御霊大神を祀った御霊宮神輿が出てきます。む

おおくにたまじんじゃ いっしょ まつ いちのみや ろくのみや むつ じんじゃ みこし
かしは大國魂神社と一緒に祀られている一ノ宮から六ノ宮までの六つの神社の神輿が、

むさしのくに かくち じっさい ふちゅう あつ き
武蔵国の各地から実際に府中まで集まって来ていたといわれています。

まつり せんそう えいきょう しょうわ ちゅうし せんご ふたた
「くらやみ祭」は戦争の影響で昭和20（1945）年に中止されますが、戦後には再

おこな へいせい とうきょうと むけいみんぞくぶん かざい ふうそくかん
び行われるようになり、平成22（2010）年3月には東京都の無形民俗文化財（風俗慣

しゅう してい
習）に指定されました。

おおはらえしき 大祓式

「大祓式」は、毎年6月30日と12月31日に行われます。これは知らず知らずの

間に心身についた穢れを祓い清めるための行事です。暑い夏を迎える前の6月には「夏

越の祓」を、新しい年を迎える前の12月には「年越しの祓」を行います。まず、神

職や巫女、氏子*⁶や参拝者が、切麻という細かく

切った麻と小さな白い紙を混ぜたものを体にふり

かけて祓います。次に紙の人形に息を吹きかけた

り、なでたりして自分の穢れを移し、それを川に

流し、祓い清めます。以前は是政の多摩川に流し

ていましたが、今は境内の小川を使っています。

また、「夏越の祓」の時にだけ茅の輪くぐりが行われます。茅の輪という茅*⁷を束ねて作

られた大きな輪が中 雀門前に置かれ、これを8の字にくぐることで、病気などから身を

守るといわれています。

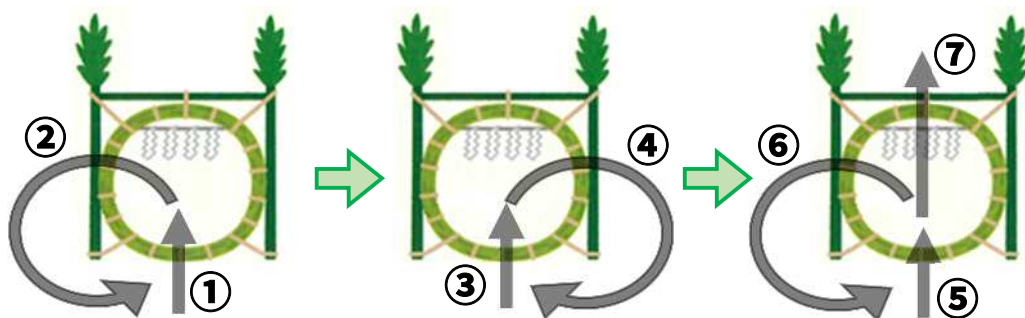
*⁶氏子とは？

ももとは、同じ祖先や同じ職業の人々が信仰した神様を「氏神」といい、時代が進むにつれて土地を守る神様「産土神」も同じように「氏神」として祀るようになり、氏神の加護を受ける地元の人々を「氏子」といいました。現在ではその地域に住み、土地の恵みに感謝して氏神を祀るためのお祭りに関係する人々のことをいいます。

*⁷茅とは？

屋根を葺く（おおう）ために使う草木の総称で、スゲやススキなどです。

茅の輪くぐり



まつり すもも 祭

まいとし おこな まつり ご こんこうじょう こんもつ のうさくもつ ゆた みの
毎年7月20日に行われる「すもも 祭」は、五穀豊穰（穀物などの農作物が豊かに実
ること）、悪疫防除（病 から身を守る）のための祭りです。当日はすももを売る店や、か
らす団扇、からす扇子が並びます。「すもも 祭」でからす団扇を見かけるようになったの
は、江戸時代の終わり頃といわれています。

すももは、むかしから悪鬼と呼ばれる化け物を祓う果物とされて、からすは、わが国で
は古くから神の意志を伝える不思議な 力を持つ鳥として大切にされてきました。

へいあん じ だい なかごろ えいしょう みなもとのよりよし よしいえ おや こ きょう と げんざい どう
平安時代の中頃、永承6（1051）年に 源 頼義と義家の父子が、京 都から現在の東
北地方にあった奥 州 の安倍氏との 戦 いにでかけました。その途 中、大國魂神社に立ちよ
って、戦 に勝つことを祈願しました。頼義父子は、安倍氏との 戦 に勝ち、お礼として神
前に粟飯とすももを供えました。その後、境内にすもも市がたつようになりました。それ
が「すもも 祭」の由来といわれています。

この祭りの頃は、田や 畑 では害 虫 や雑草の被害がではじめる時期です。言い伝えによ
ると、農作物の害 虫 を除き、身に振りかかるいろいろな災難を祓う方法として、歳神様*
⁸から「烏 扇 を以って扇げ」と教えられたとされています。このことから、からすを描い
た団扇・扇子がつけられました。

としがみさま
*⁸ 歳神様とは？

その年の福德をつかさどる神様で、正月に各家に迎
えて祀ります。この神のいる方角を明の方、または恵
方といい、全てのことに吉といわれています。

^{うちわ}からす団扇や^{せんす}からす扇子で^{あお}扇ぐと、^た田や^{はたけ}畑の^{がいちゅう}害虫は^{たいじ}みんな退治され、^{こめ}米や^{むぎ}麦、^{まめ}豆などが
^{しゅうかく}たくさん収^{びよう}穫でき、^き病^{なお}気も治るともいわれています。夏が^{なつ}過ぎた^す後は、^{あと}厄災や^{やくさい}悪いこ
^{いえ}とが家には^{やくよ}いってこないよう、^{うちわ}厄除けのため^{せんす}団扇や^{げんかん}扇子を^{かざ}玄関に飾るようになりました。



^{うちわ}
 これが、からす団扇だよ



^{おおくにたまじんじゃ}
 大國魂神社では、^{まも}お守り^{ぶくろ}袋にも
^{ししゅう}
 からすの刺繍があるよ

もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん なまえ 書名 (本の名前)	ちよしゃ ほん か ひと 著者 (本を書いた人)	しゅっぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
おおくにたまじんじゃ さい じ き 大國魂神社の歳時記	おおくにたまじんじゃ かんしゅう 大國魂神社 監修 さくら い のぶ お ぶん 桜井 信夫 文	2002	F17/サ
じんじゃ てら じてん 神社とお寺がわかる事典	いのうえ ともかつ かんしゅう 井上 智勝 監修	2009	17/ジ
むさし そうしやおおくにたまじんじやたいさい し 武蔵総社大國魂神社大祭史		2013	F175/10/ム
むさし ふ ちゅうものがたり じょう 武蔵府中物語 上	さわたり もりふみ ちょ 猿渡 盛文 著	1963	F213/10/サ
え しゃかい か じてん 絵でわかる社会科事典 4 ねんちゅうぎょう じ まつ 年中行事・祭り	かまた かずひろ かんしゅう 鎌田 和宏 監修	2013	36/I
くらやみ 祭 てん じ かいせつ 展示解説シート	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へん 府中市郷土の森博物館 編	2008	F38/ク
くらやみ 祭	さわたり もりふみ ぶん 猿渡 盛文 文 あやべ よしお え 綾部 好男 絵	1998	F38/サ
むさし ふ ちゅう まつり 武蔵府中くらやみ祭	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へん 府中市郷土の森博物館 編	2004	F38/ム
むさし ふ ちゅう みんぞく 武蔵府中の民俗	きた の あきら ちょ 北野 晃 著	1988	F380/10/キ
と どう ふ けん でんとうぎょう じ ひゃっ か 47都道府県・伝統行事百科	かんざき のりたけ ちょ 神崎 宣武 著	2012	386/カ
だいいけんきゅう カラスの大研究	くにまつ としひで ぶん 国松 俊英 文 せきぐち シュン え 関口 シュン 絵	2000	F488/10/ク

おおくにたまじんじゃ

大國魂神社ホームページ <https://www.ookunitamajinja.or.jp/>

さがしている本がみつから
ないときは、図書館の人に
きいてみよう。



「大國魂神社の祭り1」 こども府中はかせ No.7

2018年4月発行

2025年3月改訂

府中市立図書館 編集・発行

<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>